

プログラム名 (40字以内)	森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える超長期観測やバイオマスバリューチェーンの実装～		
団体名/所属	大学院農学生命科学研究科附属演習林 生態水文学研究所		
活動区分	フィールドワーク体験活動	希望する選考方法	書類審査のみ
募集人数	3人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	特になし		
活動期間	2025/9/24(水)～9/26(金)	主な活動予定場所	大学院農学生命科学研究科 附属演習林 生態水文学研究所 赤津研究林 (愛知県瀬戸市北白坂町)
プログラム実施の目的	生態水文学研究所の研究林で、90年以上の間続けられている世界的に見ても稀少な「森林・水・土砂の長期モニタリング」を支える仕事を体験する。「変わらぬもの」、「変わるもの」に思いをはせながら科学研究を支える仕事の何たるかを体感して欲しい。		
具体的な内容(800字程度)	生態水文学研究所は1922年に設置されハゲ山の緑化とそれにとまなう水と砂の流出に関する現象を教育研究する場としてきた。1925年から気象観測、量水観測を開始し、現在のようにデジタル機器やデータを蓄積する機器が存在しない時代から、代々の演習林教職員が観測技術を受け継ぎ、改良し、時には新しい技術を導入しながら、今日まで観測を続けている。また、2024年度からはバイオマスバリューチェーン社会連携講座に参画し、株式会社ダイセルと高付加価値な化成品の持続的な生産に関する共同研究を行っている。生態水文学研究所では、持続可能なバイオマスバリューチェーンの構築に向けた環境影響評価を行っている。 今回の体験活動プログラムでは、過去の観測の苦労を伝えるさまざまな資料を閲覧したり、実際に現在行われている観測業務を演習林の教職員と一緒に体験し、90年を超える記録の重さと継続することの重要性や新たな社会実装に向けた環境影響評価の現場を体験してもらいたい。 プログラムの内容は2泊3日で実施するが、実際の実施日は「活動期間」欄に示した範囲内で参加希望者との相談で決定する。現在計画している主な内容は以下の通り(順不同)であり、これらの業務から当日の天候にあわせて実施する作業内容を選択して実施する。なお、夏場の屋外での活動体験も含まれるため体力的に厳しい場合も予想される。事前に生態水文学研究所の担当者と十分に相談して作業内容を理解してから参加することが望ましい。 ○生態水文学研究所でこれまで続けてきた水文気象観測業務の体験。 ○野外での気象水文観測機器メンテナンス業務と現地でのデータ回収作業の体験 ○回収した気象水文データの解析とクオリティチェック作業の体験 ○土砂と水とのインタラクションを体感する作業、通称「砂出し」作業の体験 ○生態系モニタリング調査として樹木の葉や種子を収集・選別する作業の体験 ○森林環境調査の体験 ○UAVを活用したモニタリング調査の体験		
【総額】参加するための費用	23,800円		
【内訳】参加するための費用 (宿泊費)	200円(シーツ代) 宿泊費は無料		
【内訳】参加するための費用(交通費)	23,120円		
【内訳】参加するための費用(その他)	2泊3日分の食費(実費)		
奨励金額(予定)	19,000円		
備考	食費は1食あたり1,000円として計算しています。		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト			
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)	http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/		
この企画に対する担当者 (応募団体)の参加の有無	参加する		